

ハイチからの知らせ プラクティスに心を込めて 校長 Sr. 大山 江理子

ハイチの聖心会のシスターたちから11月の終わりに手紙が来ました。世界の聖心会に祈りを求める手紙でした。日本のメディアにはあまり取り上げられていませんが、ハイチでは大きな反政府運動が起きており、集会やデモ行進、ストライキなどにより国が麻痺状態になっているということです。ハイチは2010年に大地震に見舞われ、壊滅的な被害を受けました。ただでさえ発展途上にありましたから、経済の混乱ははかりしれません。日本と同じく島国で、地震などの災害による被害を頻繁に被っています。その上に現政権の汚職も取りざたされています。今回の反政府運動は一向に改善しない国の状況に業を煮やし、公平な社会を求める人々の怒りや反発の現れかもしれません。聖心のシスターたちは首都ポルトープランスから少し離れた町で、地域の人々のための診療所と学校で活動しています。今のところ平常の生活を維持し、学校もできるかぎり開校することで子どもたちに食べ物を提供する機会ともしているということです。混乱と暴力に満ちた解決の見えない状況において、シスターたちは不安と共に希望をもって、祈りによる支えをよびかけています。

12月3日はハイチデーです。ハイチに限らず、世界には混乱や貧困の中で生きている人々がいます。この日に初等科の子どもたちはおにぎりを食べながら、世界の子どものことを考えることでしょう。

かたや東京の私たちの生活には、クリスマスに向けて、幸せを目に見える形で求めるかのような、目を惹くものが溢れています。美しいクリスマスケーキ、素敵なプレゼント。

これから始まるプラクティスでは、イエスのご誕生を待ちながら心の訓練をします。目に見えない思いを深め、目に見えるものに心を込めていく訓練です。「ありがとう、ごめんなさい、どうぞ」この3つの言葉を通して、人との関わりに心を込めていきます。心を込めるとは、本気で取り組むことです。この季節にほんとうに大事なものは何かを考え、目に見えないものの大切さに改めて気づきたいものです。自分のできる小さなことに心を込めるときに、イエスのご誕生の喜びもほんものに近づきます。ハイチや他のところで困難を生きている人々にも近づく心となります。



## 12月の行事

- |                                      |   |
|--------------------------------------|---|
| 1日(土) 白金地区合同音楽会                      | 10日(月) 面接日・午前授業                                 |
| 3日(月) ハイチデー<br>1年・転入・編入生保護者会         | 11日(火) CW練習③(1・2限)                              |
| 4日(火) 2nd ゆりの行列(1限)<br>1st ゆりの行列(4限) | 14日(金) 1・2限平常授業<br>CW総練習3・4限、午後大掃除              |
| 5日(水) CW練習②(1限)<br>母の会代表幹事会          | 17日(月) クリスマス・ウィッシング                             |
| 6日(木) 作文発表会                          | 18日(火) 信者静修会                                    |
| 7日(金) 2年都バス営業所見学                     | 24日(月) クリスマスマサ 19:30～ 聖堂                        |
|                                      | 25日(火) クリスマスマサ 9:00～ 聖堂<br>初等科生には25日のミサをお勧めします。 |

聖心女子学院理事長であるSr. 宇野三恵子が、3年に1度の学校視察で11月6日7日8日の3日間、来校されました。

ファーストステージ朝礼での講話では、フィリピン・デュシェーンについてお話いただきました。その中で、フィリピンは周囲の人のために勇気をもって行動しました。皆さんも勇気をもって行動してください。しかし勇気をもつということは、すごいことをするというのではなく、自分がこれまでしてきたことよりほんの一步踏み出すことが勇気です。とお話になりました。



また、セカンドステージ朝礼では、総長顧問のインドのシスターが聖心女子大学の学生に話したことを話してくださいました。どのような話かというところ

インドのムンバイには、聖心女子大学があります。7人の学生が郊外の街を訪問をした時、その美しさに感激し驚いたというのです。なぜかというところ、ムンバイという街はゴミがたくさん落ちていてお世辞にもきれいとは言えない街なのだそう。特に、海岸は、ゴミ捨て場と化し腐敗しないプラスチックゴミが場所によっては腰の高さまでになっていたそうです。

インドの聖心女子大学の学生は、何とかしようと考え、ゴミ拾いをしたそうです。しかし成果は表れません。その活動を見ていた人は、何をしているのだろうと不思議に思ったそうです。清掃活動など殆どしたことがない人ばかりなので、話題になったそうです。7人の学生が、SNSで活動に参加するように呼びかけたところ1000人余りの人が集まり、海岸はきれいになったそうです。

(その後は、定期的に活動を行ききれいな海岸が増え、そして、20年ぶりにウミガメが戻ってきたそうです。…大島の加筆)

一人の力はたいしたことは無くても、大勢で行えば大きな力になります。というお話です。

このお話を伺って、「一人の100歩より100人の一歩」という言葉を思い出しました。これは、環境問題に取り組むある自治体の担当者が話された言葉です。

一人が良いことを100することと、100人の人が良いことを1したときの結果は算数的には同じです。しかし、継続性や発展性、また、周囲への影響を考えると後の方が有効であると考えます。

そのような中、登下校のマナーや言動を褒めていただく一方、ご注意をいただくことが思い浮かびました。もし、全ての子どもたちが、聖心の子どもの自覚と誇りを持ち、さらに、フィリピン・デュシェーンのような勇気をもって、一歩踏み出し素敵な姿を見せられれば、ウミガメが戻ってきたムンバイの海岸と同じように、感動を与えられるのではないかと思います。

まだ、少し早いですが、今年一年のご厚情に感謝いたします。ありがとうございました。良い年をお迎えください。

\*喪中につき年末年始のご挨拶を失礼させていただきます。  
大島久幸副校長 川村菜穂子教諭

## 12月の生活目標 ☆☆☆ 進んで人の喜ぶことをする ☆☆☆

プラクティス 心の言葉で伝えよう

「ありがとう」「ごめんなさい」「どうぞ」